

## 8. 試験方法

8.1 減衰力特性試験 ショックアブソーバ本体のピストン速度に対する減衰力<sup>(1)</sup>を測定する。

注<sup>(1)</sup> 図5のリサーチ図形のF値。

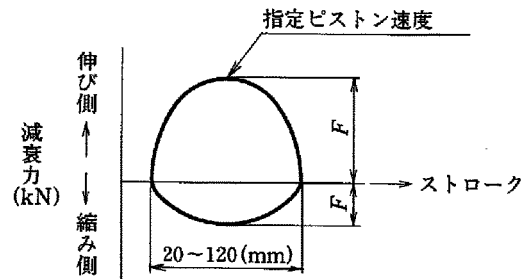


図5 リサーチ図形

8.1.1 試験装置 ショックアブソーバの上端を荷重検出器に結合して、上端又は下端を加振し、減衰力を計測記録する構造のものとする。(図6に一例を示す。)

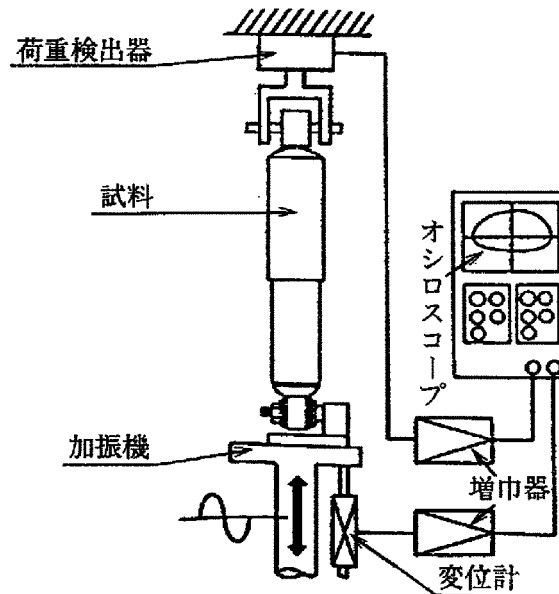


図6 減衰力特性試験装置

8.1.2 試験条件 試験条件は、次による。

- |                  |   |
|------------------|---|
| a) 試験室の温度        | 常温  |
| b) 試験開始時の試験品の温度  | 20±3℃                                       |
| c) 加振全振幅 (ストローク) | (a) 20~120mm                                |
| d) 加振速度 (ピストン速度) | (v) 0.05m/s, 0.1m/s, 0.3m/s, 0.6m/s, 1.0m/s |

$$v = \frac{\pi a n}{6} \times 10^{-4} \text{ (m/s)}$$

ここに、v : ピストン速度 (m/s)

a : ストローク (m) → mm

n : 加振回数 (回/min)

- |         |                     |
|---------|---------------------|
| e) 加振位置 | ストロークのほぼ中央          |
| f) 加振方向 | 正立鉛直 <sup>(2)</sup> |

注<sup>(2)</sup> 正立鉛直とは、ピストンロッド側の取付部を上方に、外筒側の取付部を下方にした状態をいう。

8.1.3 試験手順 試験手順は、次による。

- 指定温度とした試験品を装置に取り付ける。
- 基準線を描く。
- 試験条件で加振し、数回作動後 8.1.2d) の速度における減衰力を連続的に計測記録する。